

10月に入り、ミサ参加の年齢制限が解除されました。当面は地区割りによる交代での参加となりますが、まずは大きく一歩前進できたことを神に感謝します。

不安や不自由さを抱えた生活が続きますが、季節は確実に秋になり、爽やかな気候になって参りました。先行きが見えない中でも、私たち兄弟姉妹一人ひとりが満ち足りた日々を送れますように。10月はロザリオの月です。皆で心を一つにして祈りましょう。



ロザリオの思い出

西区 石黒

その青年は高校時代に山岳部で鍛えたことで、体力には自信があった。大学の長い夏休みの終盤、越後三山(駒ヶ岳、中ノ岳、八海山)を縦走しようと準備し、汽車と路線バスを乗り継ぎ、一人山道に入った。9月中旬、初秋の平日に山道には誰もいない。お昼過ぎに取りかかった山行のため、早くも日は暮れ、その日は山道の脇にツェルトを張り、携行食を摂って就寝。小さなラジオから聞こえる音だけが隣人の声。水の減りが心配。

二日目早朝、歩き出しは良かったものの、午後になり急に心細くなる。誰と出会うこともない、水場は枯れて補給なし。道は間違っていないはずだが、歩けど歩けど予定していた避難小屋には着かない。背負ってきた四日分の食料やら幕営用具やらがグツと肩に食い込み、重く感じられる。とうとうへたりこんだ。なんとなく怒りがこみ上げ、持ってきたジャガイモ、米などを谷に投げ捨てた。荷を軽くするため。そして思った。

「俺、何で好き好んで一人でこんな所に来たんだろう。誰とも話せず、苦しいだけなのに」。

動きたくない。動けない。

しばらくうずくまっていた青年は、それでも体を引きずるように歩き出した。気がつくやうに、ロザリオを唱えていた。不思議と苦しさが和らいでいくような気がした。そして、なぜか無性に泣けてきた。

親、兄弟、友達…自分を大事に思ってくれている人たちがいる。なのに、自分は好き勝手やっている。いろんなことが思い起こされ、泣きながらロザリオを唱えて歩いた。何時間歩いたのか、いつの間にか避難小屋に着いていた。



避難小屋も無人、その日は誰とも会わなかった。誰かがデポしていた日本酒を少しくすね、残っていた食料でささやかな夕食。一人だが、寂しくはなく満たされた気持ちだった。

駒ヶ岳と中ノ岳を登り、完全縦走ではないが迷うことなく下山した。里に下りて思った。自分を回心させるために神様が用意してくださった場だったのかなと。

もう35年も前の、私の体験です。



きっと大丈夫、と信じて

北区 菊池

「その時」は突然やってきました。新しい年を迎え、まだお正月気分が抜けきらない1月の末。

テレビのニュースでは、大型クルーズ船を映し出していました。船上の人々は次々とコロナと言う感染症に倒れ、何人もの方が亡くなっていきました。

その頃はまだ私も、人ごとのような気持ちでそれを見ていました。

でもそれは、ヒタヒタと足音を忍ばせてあつと言う間に今までの自由と平和を奪い、私達は恐れ戦きながらすべてのドアを閉めました。

対コロナ戦の始まりです。初めのうちは大したことではない、こんなことはあり得ない、何日かで終わるだろうと軽い気持ちでいました。しかし目に見えないウイルスは瞬く間に広がって、ほとんどの学校が休校になり、そして教会の扉が閉じられました。理解できないまま「緊急事態」が発令され、自粛生活となったのです。店頭からはマスク、ガーゼ、消毒薬、トイレトーパーまでが消え、食料品にまで及びました。手に入らないのならと、私は家にあるブラウスや布でマスク作りなどもしました。気が少し紛れました。

自粛生活は息苦しくもあり、ともすれば体調を崩しそうになります。実際ご病気になられた方も大勢いらっしゃるのではないのでしょうか。発熱や他の緊急の病気でも、なかなか病院は引き受けてくれませんでしたから。現に、我が家にも高熱と嘔吐で苦しむ家族がおりましたが、病院をたらい回しにされ結局自宅待機となり、不安は募るばかり。祈り続けるしかありませんでした。祈ることで教会の皆様の顔が浮かび、いかに皆様とつながっているかを改めて知りました。教会で祈り、共にいたからこそ私がいたのだと思い切り知らされました。



また、今では電話や手紙、メール、ラインなどを通していつの間にかお互いの身体を労り、コロナの終息を祈っています。ありがたいことに、全国でミサの配信が始まり、パソコンやスマホで復活祭や主日のミサにも与ることができました。皆様と一つになれるような気がして、心が癒されました。

まもなく年齢制限はありましたがミサが再開されました。消毒や検温、密を避けるための座席の準備等、神父様はじめ委員会の方々、そして多くの方々の努力とお気遣いがあった、ここまで来れたのだと心から感謝しております。

8か月以上たった今もコロナウイルス感染症の終息は見えませんが、10月からは年齢制限なく地区別でミサに与れることになりました。皆様にお会いしたら、涙してしまうような気がします。

当たり前だった以前がどんなに大切に幸せだったのでしょ。か。当たり前のように教会へ行き、ミサに与り、皆様と一緒に笑顔で活動できる日が一日も早く来るよう心から祈っています。そして長い長いステイが終わるのを待ちたいと思います。きっと大丈夫、乗り越えられると信じています。たくさんの方々に感謝をこめて。祈りのうちに。



お知らせ

<信徒会長より>

コロナ禍で失業され生活に困っている兄弟姉妹のために、食品の支援を先週より始めました。ロビーに箱を出しております。日持ちのするパスタや缶詰、レトルト食品(賞味期限まで3か月はあるもの)をご支援ください。お届けは宅配便を考えています。貯金箱を近くに置きますので、合わせてご支援ください。

<典礼部より>

11月1日(日)、死者の日の前日の日曜日に死者のための祈りを捧げます。この日はBグループのミサの日になりますが、例年通り、故人の写真を祭壇前に置くための台をしつらえますので、お祈りしていただきたい故人のお写真をご持参ください。Aグループ、Cグループの方は、その日のミサには与れませんので、事前に箱の中に、故人のお名前・霊名を書いた紙をお入れください。11月1日のミサで一緒にお祈りを捧げることにしています。箱は10月18日より設置します。

<広報部より>

ミサ参加の年齢制限が解除されたことを受け、『おおみや教会通信』の郵送対象の方について見直すことにしています。できるだけプリントをお持ち帰りください。

<青少年養成部より>

七五三の祝福についてお知らせします。11月15日・22日・29日のうち、ご自分がミサに与れる日に神父様からの祝福がいただけます。祝福を希望される方は、ごミサの当日に神父様に申し出てください。

<墓地委員会より>

大宮教会共同墓の祝別と最初の納骨を12月19日(土)に行います。その際に納骨を希望される方は、11月22日(日)までに申し込み用紙にご記入の上、墓地委員に提出してください。申し込み用紙は10月18日に受付に用意いたします。(墓地委員 Aグループ:岡村みつ子、石黒智泰 Bグループ:齊藤政行 Cグループ:酒井美子、高野紀代美)

* 投稿を募集しております。FAXか郵送で受け付けております。

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町2丁目350 カトリック大宮教会

おおみや教会通信 ☎048-641-2935 FAX048-641-2724

(3)